

高性能林業機械で搬出間伐を実施



れる人材に育つことを願っています。  
■地域に最適な  
利用間伐システムの模索  
津木地区は、戦後の積極的な施  
業が行われていないのが現状です。  
この状況を打開しようと、日頃森

林組合で作業に従事している若手  
の会員が中心となって、高性能林  
業機械による低コスト搬出間伐に  
取り組んでいます。県の森林環境  
高度担い手づくり事業の一環で  
「フォレストマネージャー育成研  
修」に研修生として参加し、先進  
地において低コスト林業の幅広い  
知識と技術を習得し、地域に最適  
な低コスト利用間伐システムを森  
林組合と共に検討しています。  
■「コゴミ」の栽培  
山村地域での安定的な収入確保  
のため、副収入につながるものが  
ないかと模索していたところ、県  
北部のかつらぎ町の志賀地区で、  
コゴミの試験栽培が行われている  
ことに着目しました。同じ中山間  
地域である当地区でも栽培可能と  
考え、休耕田を利用してコゴミの

栽培に取り組んでいます。コゴミ  
の株も順調に増加し、近隣の福祉  
施設の方に収穫体験の場として提  
供することで喜んでいただしてい  
ます。コゴミの認知度を上げつつ、  
新たな特産品としての安定した収  
穫方法と、販売ルートを探索して  
います。  
■コンクール受賞が励みに  
昨年度の全国林業グループコン  
クールで林野庁長官賞を受賞しま  
した。受賞以来、地元のテレビ番  
組で取り上げられたり、地元老人  
会から講演依頼があったり、県林  
研の交換学習大会の現場として予  
定されるなど、大きな反響があり  
ました。しかし一番の成果は、受  
賞が励みとなって会全体がさらに  
元気になり、今後につながる自信  
となったことではないかと感じて

います。  
今後、同じ有田管内の他の林  
業研究会の方々と協力し、津木  
地区を含めた有田地域の活性化を  
図っていききたいと思います。  
(和歌山県有田振興局地域振興部  
林務課 技師 村上貞樹)



コゴミを休耕田に移植し副収入を



全国林業グループコンクールで林野庁長官賞を受賞

## WE LOVE forest ! 林業研究グループ

# 広川町林業研究会

和歌山県有田郡広川町津木地区

設立年月日 昭和51年5月  
会員数 10名(平成21年4月現在)

■地域との関わりを大切に活動  
広川町は和歌山県の北中部、全  
国屈指のみかんの産地である有田  
地域の南端にあります。広川町林  
業研究会の拠点である津木地区は、  
その大部分が森林区域で、町内の  
林業の中心地域です。地域ぐるみ  
で林業を盛り上げようと、当地区  
の森林所有者を中心に会が結成さ  
れたのは、昭和51年5月のこと  
です。  
それから林業をめぐる情勢が  
様々に変化する中、地域のつな  
がりを大切にしながら活動を継続し  
てきましたが、当地区も過疎高齢  
化が進行し、平成21年4月1日現  
在、会員数は10名となっています。  
会員数は減少していますが、林業  
後継者の確保・育成、特用林産物  
の開発等を通して、地域振興に少  
しでも貢献できるよう、主に次の  
3つの活動に取り組んでいます。  
■小学生にも伝える低コスト林業  
森林・林業の役割とその重要性  
について理解を深めてもらうため、  
津木地区の小学校の授業の一環と  
して森林・林業教室を行っています。  
この教室は、県の「森林を学  
ぼう! 緑の時間」事業の一環とし  
て、県から業務委託を受けて実施  
しています。森林についての講義

や木工体験のほか、最近では機械  
を使った低コスト林業について、  
小学生にもわかりやすく紹介して  
います。津木地区で生まれ育った  
子どもたちが、少しでも森林と地  
域との関わりについて興味を抱き  
将来的に何らかの形で還元してく



小学校での森林・林業教室



小学生にヒノキの間伐を指導